C−28 衣服設計のための体形分類の研究 −側面シルエットの分類−（第2報）

名古屋女大生研　坂倉園江　柴村恵子　塚崎敏美　小沢とし子　京都女大家政　土井サチヨ

目的　衣服設計にさいして計測値はその基礎となるが、形態的因子を加味しなければ合目的的な着やすい衣服の設計は行ない得ないと考え、最も基本的な側面体形のシルエットにより、側面体形と姿勢の実態調査を行ない、去年は女子大生約700名を年令別にまとめて発表したが、今回は高校生312名を対象に調査したので報告する。

方法　第1報と同じ方法を用い、シルエッターによって撮影した陰画写真の、主として側面を用いた。衣服の設計時に幅の基準となる前面は乳頭点、後面は肩甲骨後突点を基点とする垂線を基準線とし、前面は頸窩点、胴囲線位、腹囲線位、後面は頸椎点、胴囲線位、腰囲線位における基準線からの出入りの寸法を測定した。類別は平均値と標準偏差を用いて5分類し、前面、後面別の組み合せを図式化し、形態とその分布を把握した。更に作図との関連づけを考慮し基準線を0とした類別の方法を用いて後面の腰囲線位と、前面の腹囲線位の組み合せを行ない考察を行なった。

結果　基準線を0とした類別による後面の腰囲線位と、前面の腹囲線位を組み合せた結果では、腰囲線位がⅡで、腹囲線位が0の組み合せが全体の13.5%で最も多く、次いでⅠとⅠが12.2%、0とⅠが11.5%の出現率であった。なお第1報で報告した女子大生においては最も多いのがⅠと0で全体の13.4%次いで0と0の11.8%，0とⅠの9.7%の順で、大学生に比べて高校生は後の腰囲線位の出方が大であり、全体に胸部に対して腰部の厚い体型が多かった。